

人と自然と響きあう

●果敢なベンチャー精神

昨年、当社は創業百周年を迎えた。今から百年前の一八九九（明治三十二年）年、まさに二〇世紀が、その幕を開けようとする時、創業者鳥井信治郎は、当時日本ではまったく未知の分野であった「日本に洋酒文化を築こう」という壮大な夢を抱き、事業を興した。以来百年。多くの試練を経ながら、当社は寿屋からサントリーへと発展を遂げ、現在では、洋酒、ビール、ワイン、清涼飲料、さらに医薬、花など生活文化を彩る多種多様な事業を、広く世界に展開している。当社の歩みは、絶えざる挑戦と創造の歴史であり、そこに流れるものは、常に未知、新規の分野に挑戦する果敢なベンチャー精神である。そしてそれは、創業者の口癖であった「やってみなはれ」の精神に他ならない。無理だと思われるようなことも、全力を挙げてあたれば道は開ける、「失敗は天への貸し。いつか恵みの雨になって返ってくる」というものであり、それこそが時代を経ても当社に受け継がれてきたものである。

●人と自然と響きあう

当社の製品は、麦や葡萄、水などを始めとした自然

の恵みによってもたらされることから、創業当時から自然環境を経営資源の一つとして大切にしてきた。鳥が自然環境を表わすバロメーターであることから、“Today Birds Tomorrow Man”（鳥たちの今日、人間の明日）の精神で一九七三（昭和四十八）年から愛鳥キャンペーンを展開。創業九十周年を迎えた八九年には、企業理念を「人と自然と響きあう」と定め、人と自然との共生の考え方を明らかにした。コーポレートマークも漢字の「響」という文字をデザインしたものに一新、人と自然に優しいサントリーの取り組みを、より強化していく方針である。

●二一世紀に向かって

新しい世紀の足音が、もう間近に聞こえているが、情報化の新しい波や潤沢なサービスは、便利で豊かな生活をますます可能にしていこう。こうした中、当社は、人々に魅力ある多様な生活スタイルを提案していくために、創業以来のベンチャー精神を発揮し、さらに自ら革新を図ることにより、人々のニーズに応え社会から信頼される企業として、新しい世紀を切り開いていこうと考えている。

（サントリー 東京広報部）